

News Release

屋外の製品事故から子どもを守りましょう

～ベビーカーを正しく使っていますか？自転車の安全な乗り方を教えていますか？～

子どもは成長に伴って、屋外で行動する機会が増え、その結果、様々な製品で事故が発生しています。特にベビーカーや自転車の事故に注意が必要です。

NITE（ナイト）が収集した、屋外における子ども（14歳以下）の製品事故のうち、誤使用や不注意な使用により、子どもが重軽傷を負った事故は、平成23年度から平成27年度の5年間に60件となっており、そのうち24件では重傷者が出ています。

年齢別にみると、3歳以下では、ベビーカーなどで「保護者の目が行き届かず、子どもがけがを負った」事故が多くみられ、年齢が上がると、玩具（幼児用乗り物含む）やフェンス、ドアなど様々な製品で「子供の行動によって、自らがけがを負ったり、近くにいた子どもがけがをしたりする」事故がみられるようになります。また、10歳以上では、自転車による事故が多く、「走行中、転倒するなどしてけがを負った」事故が多くなります。

3歳までの乳幼児の事故は保護者の使い方の慣れや油断から、また自転車の事故では安全な乗り方を守っていなかったり定期点検を怠ったために大きな事故に至っています。今一度、子どもの製品の使い方を見直して、事故を未然に防ぎましょう。

■ 主な事故事例

- ベビーカーに1歳未満の男児を乗せて外出中に、ハンドルのロックが不十分だったために、ハンドルの固定が外れベビーカーが転倒し、男児が頭部を骨折した。
（平成27年5月、大阪府）
- 1歳男児がベビーカーに手をかけている事に気付かずに、保護者がベビーカーを開いたため、男児が開閉部分のすき間で指を挟み重傷を負った。（平成27年9月、広島県）
- 自宅の庭で、4歳と2歳の子どもが自転車で遊んでいたところ、1人がチェーンとギヤの間に指を挟み、重傷を負った。（平成25年5月、兵庫県）
- 男児（年齢不明）がキックスケーターで道路を走行していたところ、ハンドル固定部の締め付けねじが緩んでいたために、ハンドルが操作できなくなり、バランスを崩して転倒し、左腕を骨折した。（平成23年8月、大阪府）
- 13歳男児（中学生）が自転車で走行中、前輪に異物を巻き込んだため前輪がロックし、バランスを崩して転倒し、あごや歯を負傷した。（平成23年2月、奈良県）

■ 屋外における子どもの製品事故を防止するための気を付けるポイント

- 3歳までは、保護者自身が製品使用時の危険性を認識し、子どもを製品事故に巻き込まないように注意する**
- 子どもの成長に応じて、保護者が製品使用時の危険性をきちんと教える**
- 子どもが自転車で出かけるようになったら、誤った乗り方による転倒事故に注意
特に、ハンドルに買い物袋や傘、かばんなどをぶら下げて自転車に乗らないように注意を促す**

1. 事故の発生状況

NITEが収集した製品事故情報のうち、ベビーカーや自転車など屋外で用いる製品の誤使用や子ども自身と保護者の不注意な使用により子どもが重軽傷を負った事故は、平成23年度から平成27年度の5年間に60件ありました。これら60件の事故について、事故の発生状況を次の(1)、(2)に示します。

(1) 年度別 被害状況別 事故件数

図1に「年度別 事故件数、及び被害状況別 事故件数」を示します。

屋外で、製品の誤使用・不注意などにより子どもがけがを負った事故を年度別にみると、平成24年度以降、毎年10件前後発生しています。平成27年度では、重傷事故が5件、軽傷事故が2件ありました。5年間の事故を被害状況別にみると、重傷事故の割合は全体の40%（24件）と高く、製品を使用中に転倒して骨折したり、製品のすき間に指を挟み込んで切断したりする事故が起きています。

なお、平成23年度の事故件数が多くなっていますが、これは自転車用幼児座席の足乗せ部の破損やベビーカーの幼児固定用ベルトの外れといった同種事故が多く発生したためです。

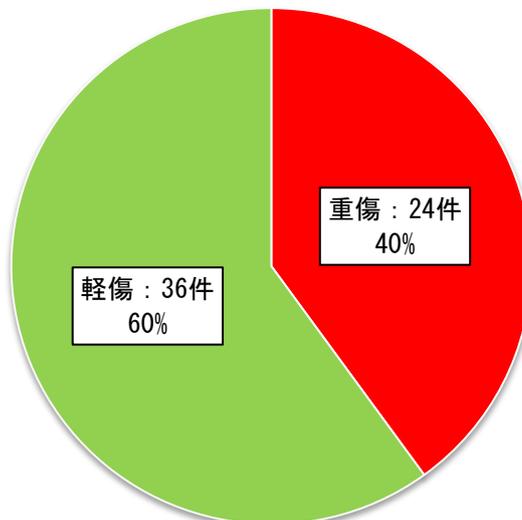
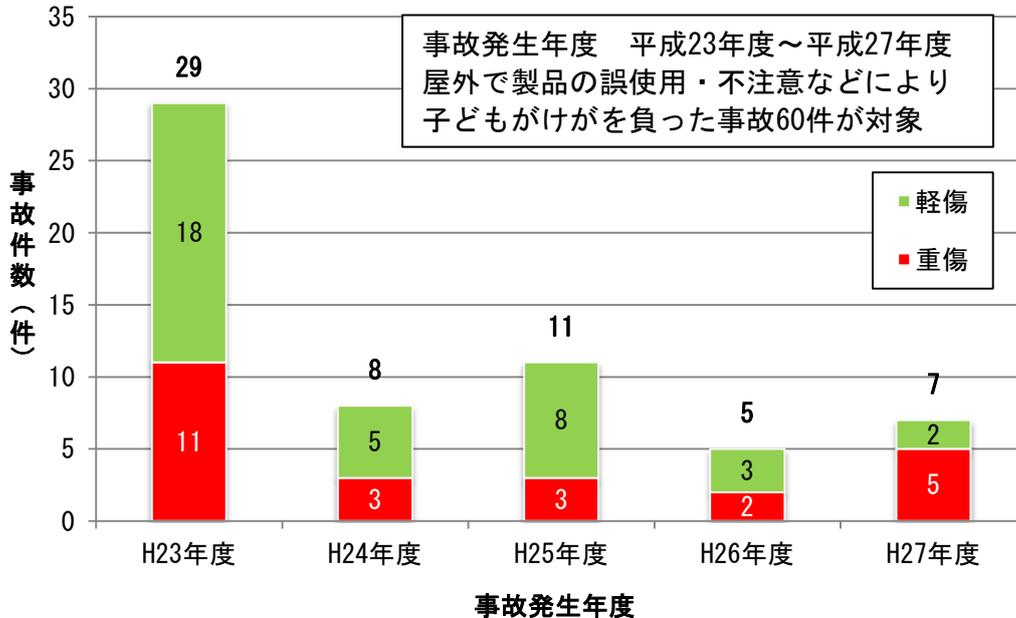


図1 (上)年度別 事故件数、(下)被害状況別 事故件数

(2) 子どもの年齢別 事故件数

図2に「子どもの年齢別 事故件数」を示します。

事故を年齢別にみると3歳までが最も多く、次いで7歳前後や11歳以上にも事故が多くみられます。

誤使用・不注意による事故60件をより詳細に分析するために、それぞれの事故事象について、表1に「屋外での子どもの事故 年齢別 事象別 事故件数」を示します。

3歳以下ではベビーカーの事故が多く起きていますが、ベビーカーのハンドルやベルトの固定が不十分だったり、子どもがベビーカーに手をかけていることに気づかずベビーカーを開いたり、「保護者の目が行き届かず、子どもがけがを負った」事故が多くみられます。

子どもは成長に応じて、屋外での行動範囲が広がり、興味の対象も多くなり、子ども同士で遊ぶことも増える^{※1}ことから「子どもの行動によって、子ども自身がけがをしたり、近くの子どものけがを負ったりする」事故が増えるようになります。例えば、「子どもが自転車（補助輪付き）に触っていたところ、別の子どもの自転車をこいだため、指を切断した」事故や「こまを回す際に周囲を十分確認しなかったため、ひもが近くにいた子どもの目に当たり、眼球に傷を負った」事故が発生しています。

10歳ごろから自転車の事故がみられるようになり、特に中学生では、通学で自転車を使う機会が増えるため、「自転車で走行中、転倒するなどしてけがを負った」事故が多くなっています。

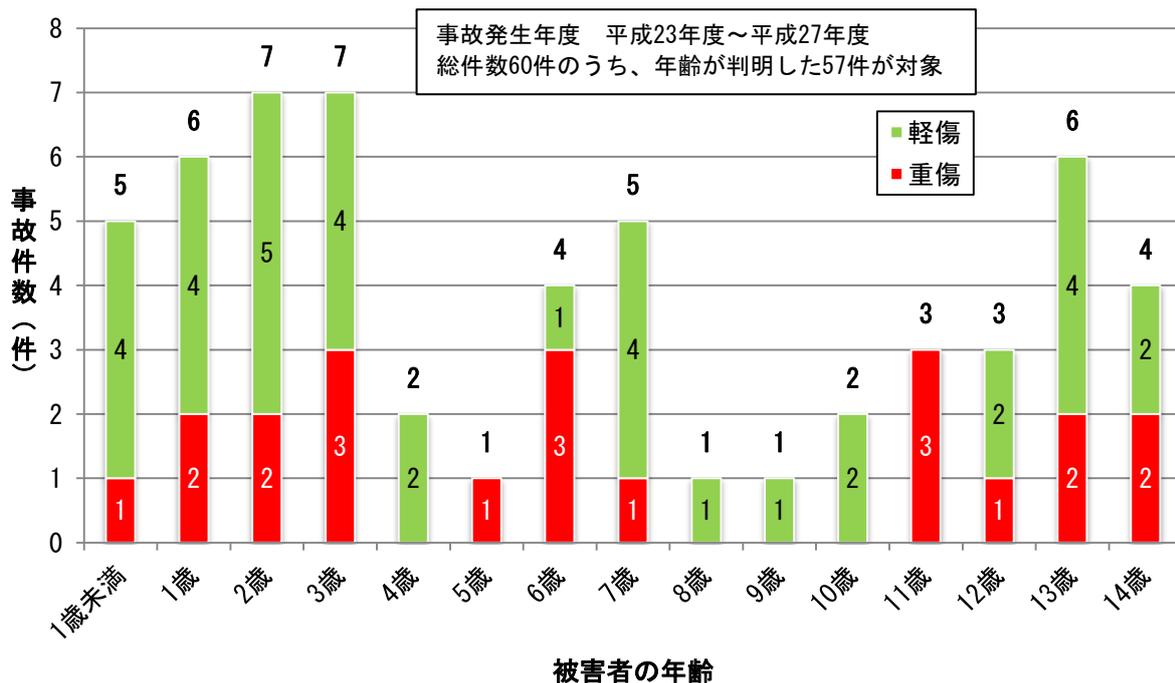


図2 子どもの年齢別 事故件数

(※1) 子どもの発達段階ごとの特徴については、以下報告書等を参照。

○文部科学省 子どもの徳育に関する懇談会 子どもの徳育の充実に向けた在り方について（報告）

3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題（平成21年9月）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm

また、子どもの成長と発生事故の関係については、以下報告書等を参照。

○経済産業省 中小企業支援事業「安全知識循環型社会構築事業」平成21年度 事業報告書

（以下URLのページ中段にpdfの報告書あり。）

http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/human-design/kidsdesign.html

表1 屋外での子どもの事故 年齢別 事象別 事故件数

事象	子どもの年齢														年齢不明	合計	
	1歳未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳			14歳
保護者の注意が行き届かず、子どもがけがを負った	5	6	6	5	1	1	4	2	1								31
子守帯の肩ベルトのバックルが幼児のあごに押しつけられた	1																1
ベビーカーのベルトが緩んだまま使用して、幼児が落下した	3	3															6
ベビーカーのハンドルロックが不十分なまま使用してハンドルロックが外れて転倒	1																1
保護者が目を離しているときに、幼児がベビーカーに乗ろうとして転倒した		1	1														2
子どもがベビーカーに触れていることに保護者が気づかずベビーカーを開いて、すき間に指が挟まれた		1	4	3													8
段差の乗り越えなどを繰り返し、ベビーカーのフレームが折れ、幼児が転落した		1															1
幼児用三輪車の背もたれの固定が不十分であったため、すき間に幼児が指を挟んだ			1														1
幼児に気づかずに、保護者が跳ね上げた自転車のスタンドで幼児が指を挟んだ				1													1
自転車用幼児座席の足乗せ部が繰り返しの負荷によって破損し、幼児の足が車輪に巻き込まれた				1	1	1	3										6
2人乗り自転車で走行中、後部に乗っていた子どもの足が車輪に巻き込まれた							1	2	1								4
その他、子どもの行動によって、子ども自身や周囲の子どもがけがを負った			1	2	1			3			2	2				2	13
子どもが自転車（補助輪付き）に触っていたところ、別の子どもが自転車をこいだため、指を切断した			1														1
後ろから他の子どもに三輪車を押され、乗っていた幼児の足指が前輪に巻き込まれた				1													1
こまを回す際に周囲を十分確認しなかったため、ひもが近くにいた子どもの目に当たり、眼球に傷を負った								1									1
屋外で転倒した拍子に、持っていた水筒があごに当たって裂傷を負った				1													1
スケート場で転倒して、ヘルメットのベルトであごを強打した					1												1
外から玄関のドアを開く際にドア下部にサンダル履きの左足が当たり親指の爪がはがれた								1									1
空気を入れ過ぎたボールを砂利道で弾ませた際に破裂し、顔面に当たってけがを負った								1									1
キックスケーターのハンドルの固定が不十分なまま走行して転倒した																1	1
ハードルを跳んだ際に足が引っ掛かり転倒し、倒したハードルで足を負傷した											1						1
靴のかかとを踏み付けて使用し、変形したかかとで足のくるぶしに擦過傷を負った											1						1
履いていた野球用スパイクが靴ひもに引っ掛けて転倒した												1					1
フェンスによじ登ろうとして、フェンスが破損して転落した													1				1
折りたたみテーブルにぶつかって上に置いてあったこんろが倒れ、沸かしていたお湯がこぼれてやけどを負った																1	1
子どもが自転車で走行中、転倒するなどしてけがを負った										1	1	3	6	4	1		16
部品が破損したまま乗り続け、バランスを崩して転倒した										1		1					2
前輪が異物を巻き込んでロックし、バランスを崩して転倒した													4	1			5
前輪が自転車の部品を巻き込んでロックし、バランスを崩して転倒した												1		1			2
ブレーキ操作やギヤ操作を誤り、バランスを崩して転倒した											1		1				2
段差に乗り上げようとしてバランスを崩して転倒した															1		1
荒い乗り方をしていたため、前ホークやハンドルポストが破断し、バランスを崩して転倒した													1	2			3
変速機の固定位置がずれていたために、変速操作時にチェーンが外れ、バランスを崩して転倒した												1					1
合計	5	6	7	7	2	1	4	5	1	1	2	3	3	6	4	3	60

2. 子どもの製品事故事例と気を付けるポイント

ここでは子どもが重傷を負った事故について、以下に具体的な事例を示します。

① ベビーカーのハンドルロックが不十分な状態だったため、ハンドルが外れ転倒

平成 27 年 5 月 27 日（大阪府、1 歳未満・男児、重傷）

【事故の内容】

ベビーカーに 1 歳未満の男児を乗せて外出中、車輪が段差に当たった際、ベビーカーが転倒し、転落した男児が頭部を骨折した。

【事故の原因】

当該ベビーカーはハンドルを前後に切り替えることで、子どもが対面になったり、前方を向いたりすることができる構造であった。

ベビーカーの左側ハンドルのロック（ハンドルロック）が外れた状態で、右側ハンドルのロックも不十分な状態（半掛かり）だったため、段差に当たった際にハンドルロックが外れバランスを崩して転倒したものと考えられる。（図 4 参照）

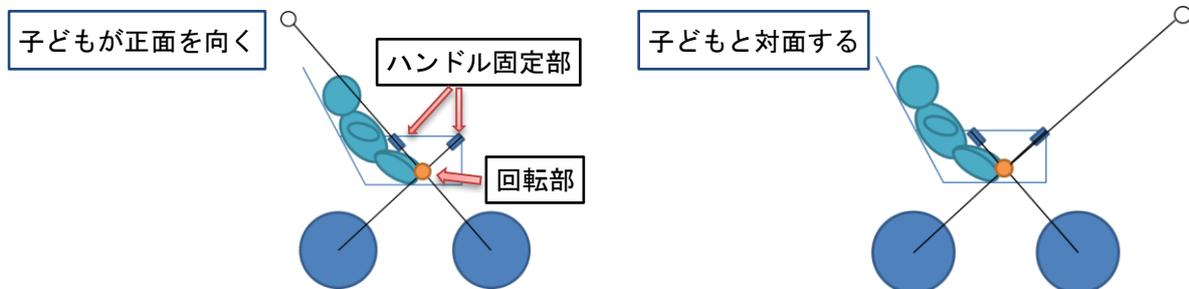


図 3 ベビーカーの構造

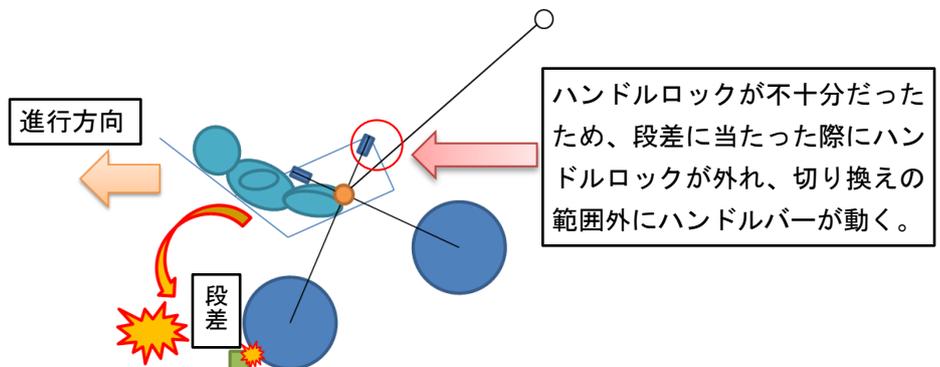


図 4 事故の状況

② 子どもに気づかずに、保護者がベビーカーを開いたため、指を挟み重傷

平成 27 年 9 月 5 日（広島県、1 歳・男児、重傷）

【事故の内容】

ベビーカーを開いたところ、1 歳男児がベビーカーで指を挟み重傷を負った。

【事故の原因】

男児が右手をかけている事に気付かずに保護者がベビーカーを開いたため、折り畳み部のハンドルパイプと樹脂製ハンドル受け部間で指を挟んだものと考えられる。

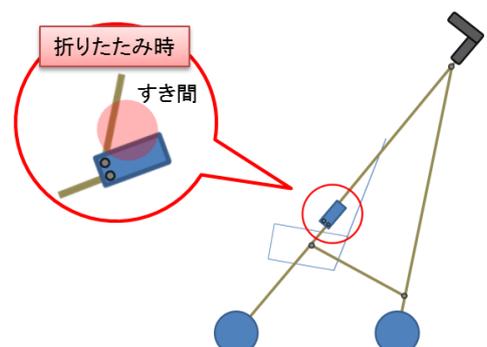


図 5 指挟み箇所

③ 子どもが自転車に触っていたところ、別の子どもが自転車を漕いだため、指を切断
平成 25 年 5 月 3 日（兵庫県、2 歳・男児、重傷）

【事故の内容】

自宅の庭で、2 歳男児が自転車につかまった状態で、4 歳女児が自転車を漕いだところ、つかまっていた男児がチェーンとギヤの間に左手中指を挟み、指の先端を切断した。

【事故の原因】

自転車の近くにいた 2 歳男児が、自転車の回転部に手を入れたことにより生じた事故と考えられる。

なお、取扱説明書には、「回転部には触れない、特に子どもが遊んでいる時などに回転部に手や足を突っ込まないように注意する、子どもの使用については保護者が必ず読んで指導する」旨、記載されていた。

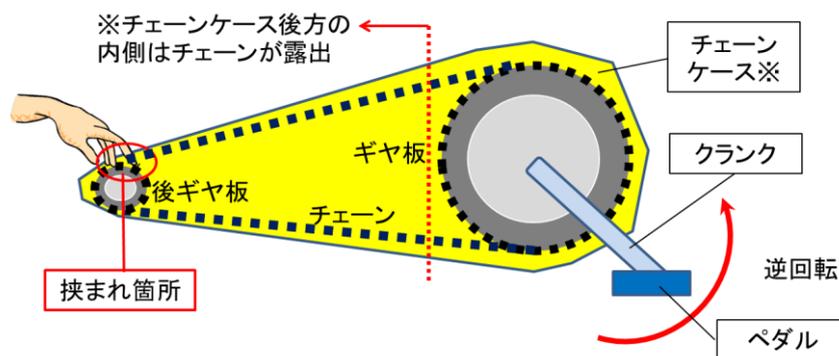


図 5 幼児用自転車の指挟み箇所

④ キックスケーターで走行中に転倒して腕を骨折
平成 23 年 8 月 23 日（大阪府、年齢不明・男児、重傷）

【事故の内容】

キックスケーターで道路を走行中、転倒し、左腕を骨折した。

【事故の原因】

ハンドル固定部の締め付けねじが緩い状態で使用したため、走行中にハンドルが操作できなくなり、バランスを崩して転倒したと考えられる。

なお、取扱説明書には、「使用前にボルトやナットに緩みがないか確認する」旨、記載されていた。

⑤ 自転車の前輪がロックし、バランスを崩して転倒
平成 24 年 2 月 19 日（奈良県、13 歳・男児、重傷）

【事故の内容】

自転車で走行中、前輪がロックして転倒し、あごや歯を負傷した。

【事故の原因】

右から前輪が異物を巻き込んだことにより、右側スポークが折損してリムやタイヤが左方向にゆがみ、前ホークに接触したために、前輪がロックし、バランスを崩して転倒したものと考えられる。

屋外での子どもの製品事故を防ぐためのポイント**1. 3歳までは、保護者自身が製品使用時の危険性を認識し、子どもを製品事故に巻き込まないように注意する**

3歳児までの事故は、保護者が使用する中で、子どもがけがをする事故が多いことから、保護者自身が製品の使い方やその危険性を認識することが重要です。取扱説明書を熟読して使い方を習熟するとともに、使用する機会の多いベビーカーでは、使うたびにハンドルや固定ベルトのロックがしっかりかかっているか確認してください。また、乳幼児の行動には注意しましょう。乳幼児がベビーカーや自転車に触れているときに、折り畳んでいたベビーカーを開いたり、自転車のスタンドを上げたりすると、すき間に乳幼児の指などが挟まれるおそれがあります。

2. 子どもの成長に応じて、保護者が製品使用時の危険性をきちんと教える

子どもは成長に応じて、屋外での行動範囲が広がり、興味の対象も多くなり、子ども同士で遊ぶ機会も増えます。子どもの行動を見守りつつ、製品を使用する際の注意や危険性をきちんと伝えることが重要です。例えば、おもちゃで遊ぶときには周囲に気を付けて他の子どもにぶつけないようにすることや、屋外で子どもが触れる可能性があるドアやフェンスなどに潜む危険性を普段から教えるようにしてください。

また子どもが屋外で使う玩具（ボールやキックスケーターなど）については、保護者の方が定期的に点検して、異常がないか（ボールなら空気が入りすぎていないか、キックスケーターならハンドルなどの固定が緩んでいないかなど）確認して、異常がある場合には取扱説明書を参考に、正しい処置を施すようにしてください。

玩具を使う場所にも注意が必要です。特にキックスケーターにおいては、今年の6月にキックスケーターに乗っていた男児が踏切に進入し、電車にはねられて死亡する事故が発生しています。使用に適する場所か、保護者が確認し、安全な場所で使用させるようにしてください。

その他、NITE ホームページにおいて、NITE が収集した事故情報を検索を行うことができます。

<http://www.jiko.nite.go.jp/php/jiko/search/index.php>

子どもの事故事例を検索する際は、キーワードとして「乳児」、「幼児」、「子供」を入れるか、または各製品名（「ドア」、「フェンス」、「キックスケーター」など）で検索してください。

**3. 子どもが自転車で出かけるようになったら、誤った乗り方による転倒事故に注意**

特にハンドルに買い物袋や傘、かばんなどをぶら下げて自転車に乗らないように注意を促す

自転車の事故では、車輪が異物などを巻き込んで固定（ロック）され、バランスを崩して転倒した事故が最も多くなっています。ハンドルに買い物袋や傘、かばんなどをぶら下げて自転車に乗ると、買い物袋や傘を車輪に巻き込んで車輪がロックして一気にブレーキがかかったようになり、前方に転倒するため危険です。

その他の自転車の事故については、平成29年（2017年）3月に自転車の事故について注意喚起を実施していますので、参考にしてください。

（参考）平成29年3月23日付プレスリリース

「春に自転車の事故が多く発生しています ～正しい乗り方と乗車前確認・定期点検で事故を防ぎましょう～」

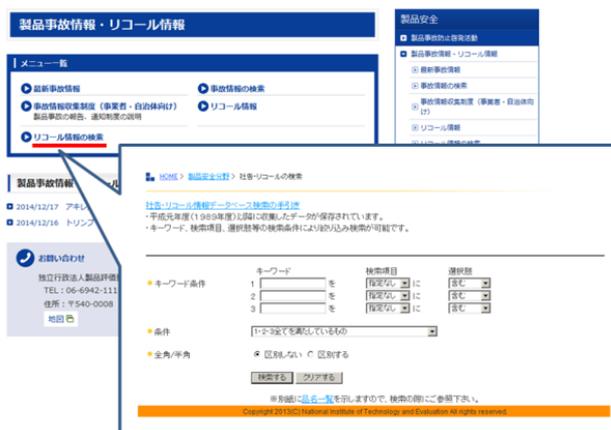
<http://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2016fy/prs170323.html>



4. リコール製品を知らずに使い続けていませんか

お使いの製品がリコール対象製品ではないか、今一度確認してください。もし、リコール製品の場合は、すぐに使用を中止して、製造事業者などに問い合わせてください。

NITE ホームページにおいて、平成元年度（1989 年度）以降に製造事業者や販売事業者などが行ったリコール情報を収集したデータベースを公開しており、リコール情報の検索を行うことができます。



<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

検索サイトを利用する場合は、「NITE リコール」等の単語で検索してください。



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 新井 勝己
担当者 穴井、田代

- 記者説明会当日
電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870
- 記者説明会翌日以降
電話：06-6612-2066 FAX：06-6612-1617

子どもが屋外で重傷を負った製品事故の概要について

以下に参考情報として、重傷事故（全 24 件）の被害状況の概要を示します。

No	発生日	発生場所	品名	被害状況	事故原因
①	平成 23 年 4 月 10 日	静岡県	自転車	足が車輪に巻き込まれた 6 歳の女兒・左足擦過傷	取扱説明書の不備、保護者の不注意 (事故原因区分：B)
②	平成 23 年 5 月 3 日	埼玉県	自転車	ハンドルに顔を殴打 小学生の女兒・顔に裂傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
③	平成 23 年 7 月 15 日	埼玉県	自転車用幼児 座席	足が車輪に巻き込まれた 3 歳の男児・左足裂傷	設計不良、保護者の不注意 (事故原因区分：B)
④	平成 23 年 8 月 6 日	岡山県	テーブル(折り 畳み)	テーブルが倒れ、鍋のお 湯がこぼれた 女兒・脚をやけど	注意表示の不備、使用者の 不注意 (事故原因区分：B)
⑤	平成 23 年 8 月 15 日	北海道	幼児用乗物 (三輪車)	小指を挟み込んだ 2 歳の女兒・小指負傷	原因不明 (事故原因区分：G)
⑥	平成 23 年 8 月 23 日	大阪府	キックスケー ター	ハンドルが空転して転倒 男児・左腕を負傷	原因不明 (事故原因区分：G)
⑦	平成 23 年 9 月 10 日	神奈川県	自転車用幼児 座席	足が車輪に巻き込まれた 5 歳の女兒・左足裂傷	設計不良、保護者の不注意 (事故原因区分：B)
⑧	平成 23 年 11 月 4 日	千葉県	自転車用幼児 座席	足が車輪に巻き込まれた 6 歳の女兒・右足骨折	設計不良、保護者の不注意 (事故原因区分：B)
⑨	平成 23 年 11 月 30 日	福岡県	自転車	中指を挟み込んだ 3 歳の女兒・左手中指爪半 分切断	保護者の不注意 (事故原因区分：E)
⑩	平成 24 年 1 月 31 日	東京都	自転車用幼児 座席	足が車輪に巻き込まれた 6 歳の女兒・右足裂傷	設計不良、保護者の不注意 (事故原因区分：B)
⑪	平成 24 年 2 月 19 日	奈良県	自転車	前輪がロックして転倒 13 歳の男児・あごや歯を 負傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
⑫	平成 24 年 5 月 19 日	滋賀県	自転車	ブレーキ操作を誤って転倒 11 歳の男児・右手首負傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
⑬	平成 24 年 9 月 8 日	岐阜県	靴(野球用)	野球をしていて靴ひもに 引っかかり転倒 11 歳の男児・左手首負傷	原因不明 (事故原因区分：G)
⑭	平成 24 年 11 月 23 日	神奈川県	ベビーカー	自分でベビーカーに乗ろ うとして転倒 1 歳の女兒・額を負傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
⑮	平成 25 年 5 月 3 日	兵庫県	自転車	左中指を挟み込んだ 2 歳の男児・中指先端を切 断	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
⑯	平成 25 年 6 月 14 日	京都府	幼児用乗物 (三輪車)	足が車輪に巻き込まれた 3 歳の男児・脚親指	保護者の不注意 (事故原因区分：E)

⑰	平成 26 年 1 月 31 日	沖縄県	自転車	乗車中に転倒 13 歳の男児・内臓を負傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
⑱	平成 26 年 8 月 2 日	宮城県	自転車	前ホークが破損して転倒 14 歳の男児・両手首や両 膝などを負傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
⑲	平成 26 年 9 月 28 日	愛知県	自転車	チェーンが外れて転倒 12 歳の男児・左手や右足 などを負傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
⑳	平成 27 年 5 月 27 日	大阪府	ベビーカー	ベビーカーが転倒 1 歳未満の男児・頭蓋骨骨 折	原因不明 (事故原因区分：G)
㉑	平成 27 年 7 月 20 日	大阪府	ドア（玄関用）	ドア下部に足をぶつけた 7 歳の男児・左足親指のつ め剥がれ	使用者の不注意 (事故原因区分：E)
㉒	平成 27 年 8 月 6 日	福岡県	自転車	前ホークが破損して転倒 14 歳の男児・脳挫傷及び 顔面大怪我	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
㉓	平成 27 年 10 月 15 日	大分県	フェンス（住宅 用）	フェンスから転落 11 歳の男児・足や手首を 負傷	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
㉔	平成 27 年 9 月 5 日	広島県	ベビーカー	指を挟み込んだ 1 歳の男児・指切断	設計不良、保護者の不注意 (事故原因区分：B)